

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	○三重県の視覚障がい教育の中核的役割を果たすとともに、児童・生徒一人ひとりが尊重され、夢や目標に向けチャレンジできる学校
(2)	<p>育みたい児童・生徒像</p> <p>○夢や目標（スポーツや文化的な活動、日常の課題、国家試験合格や優れた施術者になること等）を自ら定め、挑戦する児童・生徒。 ○自他の命を大切にする、人権感覚にあふれた児童・生徒。 ○仲間とともに積極的に活動し、互いを尊重し理解し合う関係を築いている児童・生徒。</p>
	<p>ありたい教職員像</p> <p>○視覚障がい教育に関する専門性の維持・向上に積極的に取り組み、関係機関と連携をはかりながら視覚障がい児・者の学習支援やセンター的機能の充実をはかろうとする教職員。 ○特別支援学校に勤務する者として、幼児・児童・生徒個々の障がいに基づいた誠実な支援を行い、幼児・児童・生徒及び保護者からの信頼に応えられる人権を重んじた真摯な態度で教育を行う教職員。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童・生徒>将来の自立と社会参画に向けて、学齢児においては「生き抜いていく力」につながる知識やスキルの習得を、成人生徒においては国家試験に合格し、希望進路が実現することを望んでいる。 <保護者>学力や基礎生活力の向上に向けて専門的な視覚障がい教育が受けられることや、将来を見通した情報提供並びに個々に応じた進路指導が期待されている。また、視覚障がいの特性をふまえた危機管理体制の充実が望まれている。 <地域>視覚障がいのある乳幼児の保護者への支援や他校に在籍する視覚障がい児童・生徒への学習支援、中途視覚障がい者への生活支援の充実が望まれている。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><家庭>点字等の専門的な指導を充実するとともに、教育内容や進路に関する担任等との相談の機会を増やしてほしい。 <地域社会>盲学校の教育内容や視覚障がいの理解につながるような情報を発信してほしい。 <学校・幼稚園・保育園等>視覚障がい児童・生徒に対する指導について、専門的な見地から助言してほしい。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><家庭>本校の教育方針に対して理解と協力を進め、共通した方向性で家庭教育を行ってほしい。 <地域社会>本校の取り組みを理解し、各種行事に参加したり、啓発活動を行う機会を提供したりしてほしい。 <学校・幼稚園・保育園>早期からの適切な支援を行うべく、早めに対応できる体制を整えてほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・「改善課題」について委員と認識を共にしたが、専門性向上については概ね達成されている。 ・在校生数により学級数が変動し、それに伴って職員数も変動するので、専門性の継承が課題と考えられる。聴覚障がい児童・生徒の支援のシステムと同等のライフステージをつなぐトータル窓口が必要といえる。 ・校内の情報共有については、継続して取り組んでいくべきである。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒数が少ないことから、社会性向上につながる集団での教育活動には弱みがあるが、個々の児童・生徒の状態に応じた細やかな学習計画（理療科においては、課外授業も含む）を設定して取り組めることが強みである。 ・理療科では、資格のない生徒の就職が困難な状況にあることから、国家試験に合格するための専門教育と指導力の向上を進めるとともに、就職先の確保に向けて、一層の啓発活動と進路開拓を行う必要がある。 ・学校内における高い専門性を持った指導を担保しつつ、センター的機能として他の学校等への支援に経験豊富な教諭を派遣していることから、全ての教員に対して、知識や専門性向上のための研修体制を一層充実させ、視覚障がい領域の免許取得を推進することが急務である。 ・地域や保護者からの要望を受け、幼児等に対する支援体制を構築し幼稚部設置に向けた取組を推進していく必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・広く県民に対して、視覚障がい児・者の子育て、教育、生活等での相談先として知られてきている反面、全県一区の学校であるため支援が広域におよび、近隣地域等との連携が深まりにくい状況がある。 ・視覚障がい者の特性に配慮した巨大地震や津波などに対する防災・減災の取り組みを一層進めていく必要がある。 ・本校の支援活動や支援教育の取組等を積極的に外部に発信し、視覚障がい教育について啓発していく必要がある。 ・時間外労働が一部の教員に偏っていることから、業務分担の平準化を図るとともに、全体的な総勤務時間の縮減を図る必要がある。 ・人権教育を充実させるために、教職員の人権感覚を涵養する取組を行う。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康管理意識、体力の向上、基礎学力の向上にとりくみ、仲間とともに、自ら進んで課題に挑戦する態度を養う。理療科においては、国家試験の合格と優れた人材の育成をめざすとともに、中途視覚障がい者の自立と学び直しのための教育課程について具体的な検討を進めていく。 ・将来の社会参画と自立に向けて、幼・小・中・高・専と継続したグランドデザインを構築しキャリア教育の実践を積み重ねる。 ・教職員の視覚障がい教育に対する専門性の維持、向上をはかるため、3年間で一定の視覚障がい教育の専門性を身につけられるような研修体制づくりをめざす。 ・早期教育・幼児教育を充実させるための幼稚部を設置する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・県内全域に対するセンター的機能の充実をはかるとともに、学校所在地域との連携を強めていく。 ・児童生徒の生命の安全を第一に考え、より幅広い視点から危機管理体制の見直しを図る。 ・県内のすべての視覚障がい児・者が、本校の存在や教育内容について知ることのできる状態を目指して、教育や福祉等の行政及び医療機関、社会に向けた啓発を一層強化していく。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

※：定期的に進捗を管理する取組 ◎：最重点取組

項目	取り組み内容・指標・結果（案）	備考
----	-----------------	----

学習・生活指導の充実	<p>(1)一人ひとりの学習意欲や基礎学力の向上(小・中学部)</p> <p>【活動指標】児童生徒の情報交換会を持ち必要な情報交換が得られたかどうか。</p> <p>【成果指標】個別の指導計画の年間目標 1 項目以上を達成する。</p> <p>【活動・成果】各生徒の個別の指導計画年間目標 1 項目以上達成した。</p> <p>学部会や学部研修、学年会で児童・生徒の指導についての情報交換をこまめに行った。その結果、児童・生徒一人ひとりについて教員間で十分な情報共有を行うことができた。また、児童・生徒それぞれの課題を共通認識し、連携して指導にあたることで、児童・生徒の成長につながった。</p>	
	<p>(2)仲間とのつながり、ソーシャルスキルの向上(小・中学部)</p> <p>【活動指標】仲間と協力して取組んだり、日常生活経験を豊かにしたりするための活動を提案し、学部単位及び小・中学部合同の活動や校外学習を実施する。</p> <p>【成果指標】個別の指導計画の年間目標 1 項目以上を達成する。</p> <p>【活動・成果】各生徒の個別の指導計画年間目標 1 項目以上達成した。</p> <p>小・中学部合同の校外学習を 2 回、交流学习を 2 回行い、学部をこえた仲間づくりに取り組むことができた。学部単位では、小・中学部それぞれ 2 回の校外学習を実施した。小中学部合同で『SSピンポン体験会』を実施し、将来の余暇活動につながる視覚障がいスポーツについて認識を深めた。</p> <p>他県の盲学校・視覚支援学校とオンラインで交流を行なった、小学部では 3 校と延べ 9 回、中学部では 1・2 年生が 2 校と延べ 3 回、3 年生が 1 校と 2 回の交流を実施した。自己紹介や自分たちの学校生活を紹介し、同じ障がいのある他県の児童・生徒と新たな関係を築くことができた。また、一緒に学習することでお互いを知り、さらに関係を深めることができた。</p>	
	<p>(3)自主的に学習できる生徒の育成(普通科)</p> <p>【活動指標】学部会で月 1 回生徒の情報交換を行う。年間 11 回実施。</p> <p>【成果指標】各生徒の個別の指導計画年間目標 1 項目以上達成</p> <p>【活動・成果】各生徒の個別の指導計画年間目標一項目以上達成した。</p>	
	<p>(4)思考力・判断力・コミュニケーション力・情報活用能力等の習得のための支援(普通科)</p> <p>【活動指標】年度初めと各学期末の 5 回、自立活動検討会を実施。</p> <p>【成果指標】全生徒が将来の進路や日常生活の目標を明確にできる。</p> <p>【活動・成果】全生徒が将来の進路や日常生活の目標を明確にできた。</p>	
	<p>(5)適切な進路への指導・支援、人権を尊重する理療・保健理療施術者の育成(理療科)</p> <p>【活動指標】1. 定期試験(年 5 回)・実力テスト(年 1 回)を実施する。 2. 各学年に応じた進路情報の提供と、進路先の見学・実習をおこなう。 3. キャリア教育の充実</p> <p>【成果指標】1. 国家試験合格を見込める学力の育成。 2. 進路懇談・見学・実習により、卒業後の進路先を具体的にさせる。 3. 施術者に必要な技術と倫理を身につけさせる。</p> <p>【活動・成果】おおむね達成(国家試験合格を見込める学力があると判断した。実態に応じて、見学・進路指導に関する懇談や情報提供活動を実施した。生徒の授業以外のつまずき等について教員間で情報交換し、共通認識のもと対応できた)</p>	
	<p>(6)舎生一人ひとりに応じた支援・指導の充実(寄宿舎)</p> <p>【活動指標】1 保護者、学級担任と連携を密にする。 2 職員間及び宿直舎監との毎日の引き継ぎを確実にやり、情報共有を図る。 3 職員間の指導の統一を図り、全職員で舎生の指導・支援に取り組む。</p> <p>【成果指標】1 保護者、学級担任と学期毎に懇談を実施し情報共有する。 2 宿直舎監との情報共有の時間を 1 日 3 回とる。 3 個別の指導計画における個々の目標を 1 つ以上達成する。</p> <p>【活動・成果】いずれの成果指標も達成することができた。</p>	

<p>1 保護者、学級担任との懇談を学期ごとに実施し、個別の指導計画を作成した。日常的に保護者、学級担任や舎務主任と連携し情報共有に努めた。</p> <p>2 宿直舎監との情報共有の時間を1日3回取ることができた。その結果、職員間及び宿直舎監との引き継ぎは定着した。連絡の漏れがないように大事な内容は繰り返し確認した。</p> <p>3 舎職員会等で、舎生の様子について話し合い、指導の統一を図ることができた。その結果、個別の指導計画における個々の目標を1つ以上達成することができた。</p>	
<p>(7)舎生がお互いを大切にする力・よりよい生活を築く力を育む(寄宿舎)</p> <p>【活動指標】1 舎生主体の舎生会活動に取り組む。 2 月初めに生活目標を伝え、意識づける。</p> <p>【成果指標】1 毎回行事等の感想・反省を聞き、楽しかったという割合80%以上。 2 月末に感想・反省を聞く。達成度80パーセント以上。</p> <p>【活動・成果】いずれの成果指標も達成することができた。。 1 密集、密接、密閉の3密を避けるように舎生活に配慮し、舎生主体の舎生会活動や行事等を実施した。(楽しかったという割合90%)。 2 月末に生活目標の反省を行い、意識づけることができた。(達成度100%)</p>	
<p>(8)個別の指導計画の作成と効果的な活用を進める。(教務部)</p> <p>【活動指標】キャリア教育と連動した活用を進める。</p> <p>【成果指標】指導目標にキャリア教育学習プログラムに関連した項目を入れる。(児童生徒一人につき1つ以上)</p> <p>【活動・成果】成果指標を達成することができた。 児童生徒一人につき1つ以上、指導目標にキャリア教育学習プログラムに関連した項目を入れた。キャリア教育学習プログラムをもとに各児童生徒の到達点を確認し、それぞれの今年度の重点課題を設定して、その課題解決にむけて取り組んだ。</p>	◎
<p>(9)読書および図書館利用、自学能力を育成する。(情報メディア)</p> <p>【活動指標】図書館を効率よく運営し、児童生徒が読書しやすい環境、自学自習しやすい環境を整備する。</p> <p>【成果指標】児童生徒の貸出利用者率80%以上を目標とする。</p> <p>【活動・成果】成果指標を達成できなかった。貸出利用者率75%であった。</p>	
<p>(10)早期支援・早期教育の充実、学齢期の子に対する教育相談の充実(支援部)</p> <p>【活動指標】①早期支援・早期教育「ひだまり教室」、「親子のつどい」、「でアイふれアイ相談会」の実施。 ②教育相談 個々のニーズを把握し、それに応じた必要な回数の実施。</p> <p>【成果指標】①②ともに、年度末にアンケートを行い、「よかった」の項目について、保護者の満足度「80%以上」。②については、在籍校の満足度「80%以上」。</p> <p>【活動・成果】①および②の平均で満足度80%以上を達成した。 ① 保護者の満足度は94%であった。ひだまり教室の活動を通所事業所と共有してほしいという要望があり、今後連携に努めたい。「親子の集い」「でアイふれアイ相談会」では横の繋がりをつくるきっかけとなり重要性を感じた。今後も有効な場の設定や内容を考えていきたい。 ②個々のニーズに合わせて巡回教育相談や来校相談を行った。その結果、満足度は95%であった。学習に関する教育相談については「回数を増やしてほしい、在籍校の出席扱いにしてほしい」等の要望があり、在籍校と連携を図り改善に努めたい。</p>	
<p>(11)健康診断・身体測定を通して、自分の体を知り、日常生活において基本的な生活習慣を身に付け、健康的な食生活を送り、健康の維持、体力の向上を図ることのできる児童生徒の育成を目指す。(生活保健部)</p>	

	<p>【活動指標】①児童生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高めるため、各種健康診断を実施。</p> <p>②自分の体と健康に関する知識を持ち、健康的な生活を養うため、身体測定を月1回実施。</p> <p>【成果指標】①全ての検診において受診100%</p> <p>②月1回の身体測定参加100%</p> <p>【活動・成果】成果指標の①および②ともに目標を達成した。</p>	
	<p>(1)安全・安心な寄宿舎生活を目指す。(寄宿舎)</p> <p>【活動指標】年3回(地震、火災、地震・火災)を想定した避難訓練と、不審者対応訓練の研修を行う。</p> <p>【成果指標】学期に1回の訓練と年1回の研修を実施する。</p> <p>【活動・成果】成果指標を達成することができた。</p> <p>避難訓練は、計画通りに想定を変えて年3回実施した。職員の不審者対応訓練の研修も行った。</p>	
	<p>(2)人権教育を重んじた実践をサポートする。(教務部)</p> <p>【活動指標】いじめ防止や命を大切にす視点を含めた道徳教育の全体計画の実施状況や各教科の指導内容を定期的に把握する。</p> <p>【成果指標】各学部教務担当者および道徳教育担当者が各学期の前後に実施状況を確認し、充実を目指す。</p> <p>【活動・成果】成果指標を達成することができた。</p> <p>年度当初に確認された道徳教育全体計画をもとに、各教科等において取組をすすめた。学期ごとに、担任が設定した目標や取組内容を教務担当者が確認した。</p>	※
	<p>(3)自他の命を大切にし、いじめを許さない学校づくりを推進する。(全、生活保健部)</p> <p>【活動指標】保護者との懇談を年4回、いじめアンケートとそのフィードバックを児童および保護者へ年3回実施。</p> <p>【成果指標】いじめ事象の発生時は迅速に適切な対応をとり、解消および再発防止に努める。いじめゼロ。</p> <p>【活動・成果】成果指標を達成することができた。いじめはゼロであった。保護者との懇談会を年4回実施すると共に、いじめアンケートとそのフィードバックを3回実施した。</p>	
安全・安心な学校生活	<p>(4)式典やPTA活動などの行事で、感染拡大を防止する取り組みを実施し、安全・安心な学校生活ができるようにする。(総務部)</p> <p>【活動指標】全校行事での体育館の収容人数を70人以下にし、行事の前後に、消毒等を徹底して行う。</p> <p>【成果指標】体育館への収容人数70人以下、その他の教室等での実施も、人数を制限するなど、3密対策をする。</p> <p>【活動・成果】成果指標を達成することができた。</p> <p>式典における参加者の入場制限(体育館への収容人数を70人以下にすると共に、オンライン配信を実施した)等を行い、感染症を広げることなく行事運営を行うことができた。</p>	
	<p>(5)学校給食における事故等防止への校内体制の強化。(生活保健部)</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーや疾病に起因する食事制限への除去や代替等の対応、および異物混入を未然に防ぐために複数での対策を行う。 ・非常事態時の対応マニュアルの共有。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険異物混入無し100%。 <p>【活動・成果】成果指標を達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険異物混入はなかった。 	

	<p>(6) 自らの命を守るため、防災・減災に対する意識を高く持ち、視覚障がい者の特性を考慮した安全行動がとれるように避難訓練等を通して、危機管理体制の充実を目指す。 (生活保健部)</p> <p>【活動指標】</p> <p>①年2回避難訓練を実施。(通常避難訓練・抜き打ち避難訓練)</p> <p>②年2回防災給食や個人備蓄食品試食等の実施。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①避難訓練チェックシートの提出率100%</p> <p>②実施率100%。</p> <p>【活動・成果】 成果指標を達成することができた。 年2回の避難訓練、年2回の防災備蓄食品の試食を実施した。保護者の声を受けて、避難時を想定して、机に座って食事をとるのではなく、床に座って食事をとる等の状況変化も付け加えた。</p>
障がいの理解と啓発	<p>(1) 視覚障がい関連図書を積極的に収集する。(情報メディア部)</p> <p>【活動指標】 視覚障害教育を担う機関として、視覚障がい関連図書の収集に努める。</p> <p>【成果指標】 年間で30冊、視覚障がい関連図書を収集する。</p> <p>【活動・成果】 成果指標を達成することができた。視覚障がい関連図書を30冊収集した。</p>
	<p>(2) 視覚障がい児・者理解に向けた啓発・支援活動の推進(支援部)</p> <p>【活動指標】 県内全市町の福祉行政機関及び関係諸機関への訪問を行い、視覚障がい理解のための啓発活動を推進するとともに、職域・職場開拓につなげる。また、卒業生の支援については、時期を設けず、必要時迅速な対応を行う。</p> <p>【成果指標】 県内29市町の関係機関を春と秋の年2回ずつ訪問する。関係医療機関については、年1回訪問する。また、卒業生支援については、該当卒業生や進路先へのアンケートを行い、対応についての満足度「80%以上」を目標にする。</p> <p>【活動・成果】 関係機関訪問は予定通りに実施でき、連携を深めることができた。また、本校の進路支援に対しては満足度92%が得られた。</p>
	<p>(3) 盲学校の日常の教育活動の様子を校外に知らせ、障がいの理解に努める。(管)</p> <p>【活動指標】 日常の様子をホームページなどで知らせる、行事などがあるときにマスコミに告知を出す。</p> <p>【成果指標】 ホームページの更新を月1回程度行い、可能な場合には、コメントなども追加する。行事などのマスコミへの告知を複数回行う。</p> <p>【活動・成果】 成果指標を達成することができた。ホームページの更新を年間8回、三重盲ブログの更新を年間300回行った。新型コロナ対策で、行事の外部参加は見合わせのため、マスコミ告知は行わなかった。</p>

(2) 学校運営

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

※：定期的に進捗を管理する取組

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

◎：最重点取組

項目	取組み内容・指標・結果(案)	備考
職場環境の	<p>(1) 総勤務時間を縮減する。(管)</p> <p>【活動指標】</p> <p>①時間外労働時間を正確に入力するよう啓発する。</p> <p>②学校閉校日を夏季休業中に4日設定する以外に年休等の取得を呼びかける。</p> <p>③月1回のノー会議ディ、定時退校日を設定する。</p> <p>【成果指標】</p>	

	<p>①一人あたりの月平均時間外労働:15 時間以下。 ②1 ヶ月の時間外労働時間 45 時間超え延べ人数 0。 ③1 年間の時間外労働総時間 360 時間超え人数 0。 ④年休取得 1 人 8 日以上、夏季休暇完全取得 100%。 ⑤設定した日の定時に退校できた職員の割合 90%以上</p> <p>【活動・成果】①4.4 時間。②延べ 6 人。③0 人。④年休取得 12 日。夏季休暇完全取得。②以外は達成することができた。⑤90%以上達成することができた。</p>	
	<p>(2)職員間や校務部間の報告、連絡、記録を積極的にして情報共有を促進し、円滑な学校運営と総勤務時間の削減に努める。(総務部)</p> <p>【活動指標】 会議が 60 分以内で定時終了できるようにする。</p> <p>【成果指標】 勤務時間内の会議 60 分以内の終了を 90%以上とする。</p> <p>【活動・成果】成果指標を達成することができた。 全職員が取り組む会議は 90%以上が 60 分以内に終了することができた。他の会議もおおむね 60 分以内に終了することができた。</p>	
	<p>(3)校内での情報共有を定期的に行い、スムーズな業務ができる環境づくりに努める。(管)</p> <p>【活動指標】 ・情報共有や事前打ち合わせを密にして、情報共有の遅れがないように努め、学期ごとに状況の確認をする。 ・主事会の実施、オフサイトミーティングの実施</p> <p>【成果指標】 ・教職員満足度アンケート「支援の依頼しやすい職場」項目で、全員「やや満足」以上。</p> <p>【活動・成果】全員「やや満足」は達成できなかった。</p>	
職 員 の 資 質 向 上	<p>(1)支援機器や ICT 機器等の使用方法をサポートする。(情報メディア部)</p> <p>【活動指標】視覚支援機器や ICT 機器等の使い方、その指導方法について指導・サポートする。</p> <p>【成果指標】個別、小グループに向けた情報機器関係の指導、サポートを年間 5 回以上実施する。</p> <p>【活動・成果】成果指標を達成することができた。 1)グループ研修 1 件 2)全職員に向け、ICT 機器操作に関するマニュアルを配布 10 件 3)個別の質疑応答トラブル対応 440 件</p>	
	<p>(2)教員の専門性を向上、継承・発展するための研修を行う。(研修部)</p> <p>【活動指標】 ①校内全体で授業研究を推進する体制づくりをすすめる。9 月 校内授業公開週間実施 ②「三重県立盲学校専門性チェックリスト」を活用して、教員の自己研鑽を促進するとともに、教員のニーズを捉えた研修を行う。 新転入者のための研修:4 回 学部研修・寄宿舎研修:10 回 全体研修:5 回 県外研修報告:2 回 公開講演会:1 回</p> <p>【成果指標】 ①「授業力が向上したと思われる。向上しそうだ。」のアンケート回答が 80%以上。 ② 各研修の満足度 80%以上</p> <p>【活動・成果】成果指標をすべて達成することができた。 ①アンケート回答 95.7% ②新転任者研修 100% 学部研修 全学部 100%</p>	

<p>全体研修（年度当初情報共有会 100% 全日盲研発表動画検討会 100% 全日盲研ライブ情報交換会 94.6% 点字グループ別研修 100% 県外研修報告会 100% 公開講演会 100%</p>

改善課題

- 職員満足度アンケートで、仕事の分担や同僚からの支援を受けにくい回答があるので、仕事量の均一化やコミュニケーションを増やし、頼みやすい雰囲気を作っていく必要がある。
- 人事異動による、学部で盲学校での経験年数の偏りが感じられるので、校内の配当を配慮する必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務をする職員数を減らすために、会議の短縮化や業務の割り振りの工夫を望みます。 ○センター的機能について、支援を行った小中学校等に調査を行い、成果と課題について明らかにする必要があると思います（センター的機能に関する構成概念を設定し、いくつかの因子に基づいて定量的な調査を行うことにより、成果と課題が明確化できると思います）。 ○交流の促進や、他校との共同学習を進めるなど、交流及び共同学習の推進を望みます。 ○近い将来、城山の地に盲学校と聾学校が移転（寄宿舎を含む）します。寄宿舎が先に完成するため、今後のことを見据え、盲学校児童生徒と聾学校児童生徒の交流をもつ機会について検討を始めても良いように思います（寄宿舎は城山特別支援学校の児童生徒も利用するため、彼らとの交流についての検討も始めても良いかもしれません）。 ○視覚障がい教育に対する専門性の維持向上に向けて、引き続き研修を進めていただきたい。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○副次的な籍の制度を意識しながら、居住地校交流の促進や、Web システムを利用した遠隔地の学校との共同学習を進めるなど、交流及び共同学習の機会を増やし学習活動が充実するよう調整を行います。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の経験度や業務の均一化など考慮し、過重労働の軽減に向けて取組を行います。 ○職員の専門性向上に向けて、「三重県立盲学校専門性チェックリスト」などを活用して研修を進めていくと共に、経験の少ない職員が気軽に質問のできる環境を整えていきます。